

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業)  
分担研究報告書

関節リウマチ患者の頸椎症性脊髄症後方固定術後の嚥下障害

研究分担者：波呂浩孝 山梨大学大学院整形外科教授  
研究協力者：江幡重人 山梨大学大学院整形外科准教授

研究要旨 関節リウマチ患者の頸椎症性脊髄症後方固定術後の嚥下障害はしばしば問題となる。過去の報告ではレントゲンによる後頭骨と頸椎の固定角度が関連することが報告されているが、そのメカニズムは明らかでない。我々は後頭頸椎固定術を施行されるリウマチ患者の術前後に嚥下検査を行い、術後の嚥下障害のメカニズムの一部を解明した。

A．研究目的

後頭頸椎固定術が必要となったリウマチ患者の術前後の嚥下機能を評価すること。

B．研究方法

山梨大学整形外科との共同研究で行った。2013 - 2014 年に当院でリウマチ性の頸椎症で固定術を施行された 7 例の患者に対して、術前後に video fluoroscopy と内視鏡検査を施行した。

(倫理面での配慮)  
倫理委員会で審査を仰ぎ承認された。

C．研究結果

術前から 2/7 名の患者に嚥下困難の自覚障害があった。術前の video fluoroscopy で 2 名の患者で喉頭口の閉鎖不全が認められた。術前 Endoscopy では 1 名の患者に喉頭に食物残渣が認められた。

術後には、術前から嚥下障害を認めた 2 名が嚥下困難となり、1 例は再手術による固定角度の変更を必要とした。

D．考察

本研究より、リウマチ患者の一部はすでに術前に嚥下機能に障害を持っている可能性が示唆された。後方固定術における固定角度以外にも、リウマチ患者の術後嚥下障害に関与するメカニズムが存在することが示唆された。

E．結論

術前のリウマチ患者の嚥下機能を評価した報告は少ない。本研究は、術後の嚥下困難による合併症を予防する方法につながると考える。

F．健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載

G．研究発表

1. 論文発表

Swallowing function after occipitocervical arthrodesis for cervical deformity in patients with rheumatoid arthritis.

Ebata S, Hatsushika K, Ohba T, Nitta K,  
Akaike H, Masuyama K, Haro H.  
NeuroRehabilitation. 2015 Oct  
13;37(2):299-304. doi:  
10.3233/NRE-151262.

#### H . 知的財産権の出願・登録状況

( 予定を含む )

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし